

米国のハイスクールにおける学校訪問を中核とした 職業教育改善に対する支援の特徴

ーテネシー州メンフィス学校区Aハイスクールを事例としてー

石嶺ちづる*

1. はじめに

本稿の目的は、アメリカ合衆国（以下：米国）のハイスクール職業教育改善における外部機関からの支援の特徴を、支援の中核となる学校訪問の実施方法・プロセスに焦点を当てて明らかにすることである。具体的には、南部地域教育連盟（Southern Regional Education Board、以下：SREB）の実施するハイスクール職業教育改善プログラム、High Schools That Work（以下：HSTW¹⁾）における学校訪問を中核とした専門的技術支援、テクニカル・アシスタンス・ヴィジットを取り上げ、具体的な事例の分析を通して、その実施方法・プロセスについて明らかにする。

米国では、1980年代以降、ハイスクールにおける職業教育の改善が喫緊の課題となっている。その背景として、ハイスクール修了後直ちに就労することを予定する職業教育履修者は、進学予定者に比べてハイスクール中退率が高く、高等教育を受けていない彼らは、その後の職業生活において雇用や収入等の面で不利な立場に置かれている、という状況があることがあげられる。1990年代からは、職業教育履修者に対しても、一定水準の基礎教科の同時履修を求め、可能な限りコミュニティカレッジ以上の中等後教育/高等教育を受けることを推奨・支援する連邦施策が展開されている。その中では、職業教育科目の授業においても、読解や数学・理科の知識を活用する学習活動を取り入れる、といったような方策が採られ、職業教育科目であっても生徒のアカデミックな能力の向上に寄与することが

* 教育学専攻 大学院生

求められている。米国のハイスクールにおける職業教育改善の最大の特徴は、職業教育科目の改善のみならず、アカデミックな科目やキャリア・ガイダンスの改善も含んだ、職業教育履修者がハイスクールで受ける教育全体の改善が志向されていることにある。よって、米国のハイスクールにおける職業教育の改善に対する支援では、職業教育科目の改善に対する支援にとどまらず、職業教育履修者がハイスクールで受ける教育全体の改善に対する支援が行われている。

このようなハイスクール職業教育改善の方策を、連邦に先駆けて導入したプログラムがSREBのHSTWである。SREBは、1948年に創設された全米で最も長い歴史を持つ州間連携組織であり²⁾、HSTWはSREBを中心に構成されるプログラム運営組織SREB-州職業教育コンソーシアム(SREB-State Vocational Education Consortium)によって運営されている³⁾。HSTWは次のような特徴を持つ。すなわち、SREBの示す職業教育改善プログラムの実施に必要な構成要素(HSTWモデル(HSTW-model)⁴⁾)と、推奨カリキュラム(HSTW-Recommended Curriculum)⁵⁾を基に、各プログラム実践校の改善計画を策定し、その実践によって当該校の職業教育改善を行うことである。各ハイスクールにおける改善計画の策定・実施に対して、SREBは間接的な支援(各種出版物による情報提供等)と学校訪問による直接支援を提供している。

SREBは、政策提言によって、加盟州の教育政策の策定・実施を支援する機関であり、HSTWもあくまでSREBの提案する職業教育改善プログラムのモデルに過ぎない。よって、具体的な改善計画の策定には、実践校のニーズと実状を反映させることが不可欠となる。SREBによる実践校に対する直接支援の多くが、改善計画策定の時期に集中していることから、上述のことは、HSTWに基づく職業教育改善を成功に導く重要な活動として位置づけられていることが伺える。

実践校に対するSREBからの直接的な支援の中でも、テクニカル・アシスタンス・ヴィジット(Technical Assistance Visit、以下:TAV)は、その目的と改善の取組における位置づけから、SREBによる実践校支援の中核をなすものであるといえる。TAVの目的は、改善計画を策定する際の基礎資料を作成することにある。HSTWにおける改善の取組は、3年を1期間とすることが多く、その概略は以下のようにまとめることができる。すなわち、改善計画の策定が1年目に行わ

れ、計画に基づく改善の実施を経て、3年目に、改善状況の把握とその後の改善計画策定のためのデータ収集が行われる。TAVは1年目に行われ次の3段階に分かれている。すなわち、訪問対象校からのデータの提示がなされる第一段階、訪問チームの実施する授業観察とインタビューを中心とする学校訪問によって訪問対象校の現状に関するデータが収集される第二段階、第一・第二段階で収集されたデータがTAV報告書(TAV Report)としてまとめられ訪問対象校に提示される第三段階である。対象校はTAV報告書を基礎資料として、職業教育改善計画を策定・実施する。

本稿では、これら一連の取組のうち、第二段階のTAVにおける学校訪問(以下:学校訪問)に着目する。その理由は、学校訪問が次のような特徴を持っているからである。すなわち、学校訪問では、他のプログラム実践校の教職員や、訪問対象校のステイクホルダー(保護者・地域住民・訪問対象校に接続する他の教育段階の学校の代表・企業の代表等)等、対象校にとって身近な人物が訪問チームにメンバーとして参加することである。そのことによって、訪問対象校の様子をより実態に即して把握することが志向されている。

しかしながら、学校訪問に関する専門性を有していないチームメンバーの収集するデータには、彼らの主観が含まれる危険性がある。そのため学校訪問の実施方法・プロセスには、メンバーの主観を出来る限り排除し、客観的なデータを収集するための様々な方策が講じられている。

HSTWに関する先行研究は、HSTWの実践による効果に関する定量的な研究⁶⁾が多く、支援の中核であるTAVの実施方法・プロセスを含め、効果的な実践を可能にする要因の解明は行われてこなかった。よって、本稿では、学校訪問の実施方法・プロセスの特徴の中でも、客観的なデータの収集を可能にする方策の解明を中心的課題とする。

本稿では、まずSREBの発行する各種ガイドブックと、SREBのHSTW担当スタッフに対するインタビュー調査の結果を基に、学校訪問の実施方法・プロセスの特徴を明らかにする。次に、先に明らかにした学校訪問の実施方法・プロセスの特徴を事例の分析を通して、更なる検討を加える。具体的には、テネシー州メンフィス学校区Aハイスクールで行われた学校訪問(2006年10月23日~25日)を

分析の対象とし、当該学校訪問に関するフィールドワークによって得られたデータを用いることとする。テネシー州は、SREB および SREB- 州職業教育コンソーシアムの創設当時からの加盟州であり、長年にわたって多くのハイスクールで HSTW が実践されている。メンフィス学校区 (Memphis City Schools)⁷⁾ はテネシー州最大の教育委員会であり、当該学校区では連邦の NCLB 法に基づく支援を受ける学力向上重点校 (high priority school)⁸⁾ 36校のうち、中等教育段階の10校 (ミドルスクール3校、ハイスクール7校) に HSTW を導入し、SREB からの支援を受けている。A ハイスクールはこれらの実践校の一つであり、在籍する生徒のほとんどはアフリカ系で、低所得家庭⁹⁾ の生徒が多い。A ハイスクールの特徴は、職業教育改善を必要とするハイスクールの典型ととらえることができるため、本研究における事例分析の対象とした。

2. 学校訪問の実施方法・実施プロセスの特徴

(1) 学校訪問の概要

学校訪問は、訪問対象校がこれまで行ってきた教育実践を点検し、今後3年間の学校改善計画策定の基礎資料となる TAV 報告書の作成に必要な情報の収集が目的である。したがって、同一学校区内における対象校のランク付けや、給与や処遇と連動した教員に対する評価を目的とする活動ではない。学校訪問において訪問チームは学校の改善状況を示すデータの点検や、授業観察、教職員・生徒・保護者に対するインタビューを行う。これらの活動を通して、訪問対象校における優れた実践、実践校が設定した新たな目標の達成状況、早急に解決する必要のある課題を訪問チームは把握する。訪問の結果は、訪問の最後に行われる終了報告と、訪問後に提示される TAV 報告書によって訪問対象校に公表される。次頁に、学校訪問の日程例を示す。

学校訪問チームは、リーダーと次のようなメンバー5～7人¹⁰⁾によって構成される。すなわち、学校区の HSTW 担当官または他の HSTW 実践校の職業教育担当主任、他の実践校の管理職・教員・カウンセラー、訪問対象校に接続する他の教育段階の学校 (ミドルスクールやコミュニティカレッジ・大学等) の代表、州/学校区教育委員 (任意)、保護者、州教育省スタッフ、その他訪問対象校の教育に

強い関心を示している者である。

表1 TAV の日程例

第1日	16:00~18:00	訪問チームミーティング①
	18:00~18:30/19:00	学校代表による学校説明(30~60分)
	18:30/19:00~	訪問チームミーティング②
第2日	午前中	授業観察
	昼食	
	昼食後~15:00	インタビュー
	15:00~21:00	訪問チームミーティング③
第3日	7:30~9:00	訪問チームミーティング④
	9:00~	学校代表とのミーティング

(SREB *Technical Assistance Visit Guide for Local Sites* SREB 2004 p.7および p.40を基に作成)

(2) 学校訪問の実施方法の特徴

学校訪問の実施方法・プロセスについては、チームリーダー・チームメンバー・訪問対象校のそれぞれを対象としたSREBの発行するガイド¹¹⁾の中で、様々な指示がなされている。その中でも、授業観察とインタビューは、対象校における教育実践に関するデータを収集する活動と位置づけられ、丁寧な解説がなされている。

1) 授業観察 (classroom observation)

授業観察 (classroom observation) は、授業の一場面を観察することを通して、訪問対象校の教育実践の状況を把握することを目的とする。具体的には、SREBが作成した授業観察票 (classroom notes form) (表2-1、2-2) を用いて、1授業あたり10~15分程度、観察する。授業観察票を用いることで、観察者の主観をできる限り排除することが可能となる。授業観察の時間は非常に限られたものであるため、観察すべき項目は「生徒の学力向上を支援する授業を特徴付ける要因を明らかにすること」に焦点化されている。

具体的には、次の5点について観察が行われる。すなわち、1) 意欲的に授業

表 2 - 1

授業観察表

I. 教員氏名 _____ 観察者 _____

科目 _____ 授業レベル _____

観察時間 _____

II. 生徒に関する情報

・白人女子 _____ 人 ・黒人女子 _____ 人 ・その他の女子 _____ 人
 ・白人男子 _____ 人 ・黒人男子 _____ 人 ・その他の男子 _____ 人

III. 教室内の机の配置

- 机/テーブルが、黒板に向かって並べられている。
机/テーブルが、グループを作るように並べられている。
授業中に机等の配置が変えられた。
授業に積極的に参加しない生徒を、教室の隅に座らせている。

教員の机の配置

- 教室前方 教室後方 その他

IV. 学習環境

コンピューターの台数 _____ 台	図書 _____ 有 _____ 無
使用されている台数 _____ 台	新聞 _____ 有 _____ 無
授業中での活用台数 _____ 台	雑誌 _____ 有 _____ 無

(ドリル・シュミレーション・調べ物等への活用)

V. 生徒の学習の質

授業中における生徒の活動 _____ 有 _____ 無
 科目や学年に対する学習の内容・質の適切性 _____ 有 _____ 無

VI. 特記事項

(SREB *Technical Assistance Visit Guidefor Team Leaders* SREB 2004 p.48を基に作成)

表 2-2

生徒に対する期待の向上					コメント等
1. 教員は学習の目的を明確に伝えているか。また、生徒は何が期待されているのかを理解しているか？	4	3	2	1	
2. 生徒は授業を受ける準備が出来ているか？ ・ウォーム・アップのための課題は出されるか？ ・授業は素早く開始されているか？	4	3	2	1	
3. 生徒の情報読解、作文、発表は一語もしくは1センテンス以上の長さで行われているか？	4	3	2	1	
4. 教室の中に、相互理解や努力、学習の価値を尊重する雰囲気はあるか？	4	3	2	1	
5. 学習環境の崩壊に対する対応は適切か？	4	3	2	1	
授業への参加					
6. 学習活動は、多様な学習方法を十分に取り入れる論理的な連続性を持つものとして構造化されているか？	4	3	2	1	
7. 生徒達は、考えを導出・共有化し、その内容についての理解を深化させるために、他の生徒と情報交換をしているか？	4	3	2	1	
8. 生徒は授業に関心を持ち、話し合いや調べ物、問題解決、異なる視点・観点からの考察を通して学習に参加しているか？	4	3	2	1	
9. 生徒達に情報収集や返答の構築、そして/または、自己の考えの擁護をオープンエンドの課題を教員は出しているか？	4	3	2	1	
カリキュラムの変化					
10. 適切な質の課題で、質・レベル共に高度なものであるか？	4	3	2	1	
11. 教員は、生徒の科目内容に対する理解を把握しよう心かけているか？	4	3	2	1	
12. 教員と生徒は、授業の内容について二人一組やチーム、グループ、クラス全体で継続的に話し合っているか？	4	3	2	1	
13. 授業の導入部は、テーマや現実世界の問題、論争的な問題、概念、オープンエンドな問いを含むものになっているか？	4	3	2	1	
14. 比較や要約分析、応用といった高度なスキルを使うことを全ての生徒に求めるような質問が行われているか？	4	3	2	1	
教科横断的な関連づけ					
15. 職業教育や芸術科目の授業で、アカデミックな教育に関連づけられる形で読解や数学が使われているか？	4	3	2	1	
16. 高度な内容の課題の完成を含めた有効な活用方法によって、テクノロジーが、授業での活動に取り入れられているか？	4	3	2	1	
17. 学校における重要な学習と現実世界の事象との間で関連づけが行われているか？	4	3	2	1	

(SREB Technical Assistance Visit Guide for Team Leaders SREB 2004 p. 48を基に作成)

に取り組む生徒の割合、2) 学習に参加している生徒の割合、3) 授業に対する教員の準備の度合い、4) 授業に対する集中力の向上を図る工夫、5) 上級レベルの授業と入門レベルの授業の難易度の差、である。

時間的制約や観察表の紙幅の問題から、授業観察によって得られる情報は限られたものである。そのため、観察中に授業担当教員と限りコンタクトを取り質問をすることや、授業で使用されている配布物等の教材を収集すること、板書の様子等を記録することが、観察者には求められる。

2) インタビュー

インタビューは訪問中に複数行われ、1インタビューの長さは45～60分である。アカデミックな教科担当教員、職業教育担当教員、職業教育コースの12年生、大学進学コースの12年生、カウンセラー、学校区教育委員会の管理職、校長がインタビューの対象となる。教員や生徒に対するインタビューは、グループ・インタビューの形式が採られる。また、全てのインタビューにおいて、SREBの作成した次に示すような質問項目が用いられる。

〈インタビュー項目 抄〉

○生徒に対する質問項目（全10項目）

1. 自分の通うハイスタールのことを他校に通う友人に紹介するとしたら、あなたはどのように紹介しますか？
2. どの授業が一番一生懸命勉強する科目ですか？その理由は？
3. あなたが受けた授業で行った質の高い学習だと思うものを、理由も一緒に挙げてください。

○アカデミックな教科担当教員に対する質問項目（全8項目）

1. 授業の改善に HSTW をどのように活用しているかを教えてください。
3. 校内研修の様子について教えてください。研修はあなたの授業の改善に役立っていますか？
4. 授業評価や生徒の達成度評価に、客観的なデータを用いることについて、校長はなんらかの支援を提供していますか？

5. 質の高い学習が行われているときの生徒の様子を教えてください。

○職業教育担当教員に対する質問項目（全8項目）

1. 今後必要とされる新しい職業技能的な能力を教える方法として実践していることを教えてください。
2. 職業教育の授業は、入門的な内容だけを扱っているのですか？それとも、産業のあらゆる側面についての職業に関する知識についても取り扱いますか？

(SREB *Technical Assistance Visit Guide for Team Leaders* SREB 2004 pp.53-63を基に作成) (各項目番号は資料のまま)

(3) 学校訪問における訪問チームリーダーの役割

実施方法について上記の特徴を有する学校訪問の実施において、対象校との連絡調整役であり、訪問チームを統率するチームリーダーの果たす役割は非常に大きい。リーダーの多くはSREBのスタッフであるが、SREBの行う養成プログラムを修了すれば、誰でもリーダーになることができる¹²⁾。リーダー養成プログラムは、座学を中心とした3日間の研修と、その後に行われる実際の学校訪問への参加を通して行われる実習¹³⁾によって構成される¹⁴⁾。

SREBは、『チームリーダーのためのTAVガイド (SREB *Technical Assistance Visit Guide for Team Leaders*, 2004、以下:リーダー用ガイド)』の中で学校訪問におけるリーダーの役割について詳細な指示を行っている。以下、同ガイドを基に、学校訪問におけるリーダーの役割と活動を示す。

『リーダー用ガイド』では、学校訪問におけるリーダーの活動を次の7項目に分けて、それぞれにおける役割を示している。すなわち、(1) 事前準備、(2) メンバーに対する研修、(3) 授業観察とインタビューについての説明、(4) (チームメンバーが訪問中に収集した情報の) 報告会、(5) 終了報告、(6) 報告書の執筆、(7) フォローアップ支援である。これらの活動は、事前準備 (1)、訪問中の活動 (2)~(5)、事後のフォローアップ (6) (7) に大別することができる。

(1) 事前準備は、リーダー自身が当該訪問に備える活動である。対象校のHSTW担当教員との連絡や、訪問対象校に関する資料の入手等の情報収集をリー

ダーは行う。『リーダー用ガイド』では、訪問対象校に関する各資料の読みとり方が詳細に解説されている。

訪問中のリーダー活動の中でも、(2) メンバーに対する研修におけるリーダーの役割は大きい。この活動は第1日の訪問チームミーティングで行われる。ここでは、学校訪問の概要説明、メンバーの自己紹介とリーダーによる学校訪問に関する研修が行われる¹⁵⁾。(3) 授業観察とインタビューについての説明も(2)の中で行われるが、別項目として設けられていることから、授業観察とインタビューが学校訪問の中核をなす活動であり、非常に重視されていることが伺える¹⁶⁾。(4) 報告会では、次の事項について各メンバーが収集した情報の共有が行われる。すなわち、対象校で行われている優れた教育実践、実践校における学校改善の取組、その他学校訪問を通して気づいたことである。これらを基に、実践校の実状と今後の課題、課題解決のための提言について協議が行われる。このミーティングでの議論をまとめ、翌日の終了報告とTAV報告書に反映させることがリーダーの大きな役割の一つである。(5) 終了報告は、訪問第3日の朝に1時間程度行われる。教育長や、校長をはじめとする学校の代表に、学校訪問の結果明らかになったことを口頭で示すことが目的であり、その役割をリーダーが担っている。

(6) 報告書執筆もリーダーの重要な役割の一つであり、また負担の大きな職務である¹⁷⁾。リーダーは訪問後2ヶ月以内に対象校にTAV報告書を提示しなければならない。対象校に報告書を提示する前にSREBのTAV報告書担当スタッフの査読を受ける必要がある。そのため、『リーダー用ガイド』には、報告書執筆に関するタイムラインとやるべき作業、報告書の構成・アウトラインについて詳細な説明が行われている。また、報告書の完成度に関する判断基準も示されており、精度の高い報告書の作成がリーダーに求められている¹⁸⁾。(7) では、2ヶ月以内に提示されるTAV報告書を活用した学校改善計画の策定・実施に関する支援が行われる。

3. メンフィス学校区 A ハイスクールにおける学校訪問の分析

以上見てきたように、学校訪問の実施方法・プロセスの特徴は、詳細な指示が

示されたガイドを SREB が発行していること、養成プログラムを修了したチームリーダーが訪問チームを統率することにあるといえる。ここでは、実際の学校訪問におけるガイドの活用とリーダーの役割について、テネシー州メンフィス学校区の A ハイスクールにおける学校訪問（2006年10月23日～25日）を具体的な事例として取り上げ、その分析を通して検討を行う。メンフィス学校区では、次のような有償契約がテネシー州・学校区・実践校と SREB との間で結ばれている。すなわち、連邦の NCLB 法による支援を受ける学力向上重点校に指定されている36校のうち、A ハイスクールを含む中等教育段階の10校に HSTW 導入し、06-07年度から08-09年度の3年間に渡り SREB から支援を受けるという有償契約¹⁹⁾である。

(1) A ハイスクールにおける学校訪問とリーダーの活動

A ハイスクールの学校訪問では、HSTW において実践校に対する直接支援の提供を担当する SREB 職員、学校改善コンサルタント (School Improvement Consultant) がリーダーを務めた。当該訪問には、リーダーを含め10名²⁰⁾が参加した。当該訪問の日程とリーダーの活動は表3の通りである。

第1日の訪問チームミーティングでは、授業観察とインタビューに関する研修が、リーダーによって行われた。その際、『チームメンバーのための TAV ガイド (SREB *Technical Assistance Visit Guide for Team Members*, 2004、以下:メンバー用ガイド)』が使用された。インタビューは、質問者と記録者の二人一組で行い『メンバー用ガイド』に掲載されている項目²¹⁾について質問するよう指示が出された。また、授業観察については、次のような注意事項をリーダーがメンバーに伝えた。すなわち、授業観察の目的は、訪問対象校における教育実践に関する情報収集を行うことであり、教員の評価ではないこと。1クラスあたりの観察時間は10～15分に止め、なるべく多くの授業を観察すること²²⁾。授業観察は、インタビューの空き時間に行うこと、である。

第2日の授業観察・インタビューには、リーダーもチームの一員として参加した。リーダーが担当したインタビューのうち、12学年生に対するインタビューでは、記録者を務めながら、「この学校をよりよくするための提案はありますか？」等ガイドに掲載されていない質問を行った²³⁾。「ミドルスクールの生徒との交流

表3 Aハイスクールにおける学校訪問

	時間	集中訪問の項目	具体的な内容	チームリーダーの主な活動
10/23	15:15～	全体ミーティング	・集中訪問の主旨説明	・主要な実践に基づいて訪問が行われることを説明し、3日間の日程と活動の概要を説明する。
			・訪問対象校による自校の教育実践報告（各教科主任が担当）	
	16:40～ 18:00	訪問チームミーティング	・インタビューについての説明	・進行役を務め、メンバーを訪問に備えさせるための研修を行う。
			・授業観察についての説明	
10/24	7:30～	ミーティング	・日程の確認	・日程等の確認
	8:00～	授業観察・インタビュー	・授業観察の実施	・授業観察（商業・社会科・生物）を行う。
			・インタビューの実施	・12学年の生徒に対するインタビューに記録者として参加する。
	12:00～	昼食		
	13:00～	授業観察・インタビュー	・授業観察の実施	・授業観察（代数予科・英語・代数I）を行う。
・インタビューの実施			・9学年アカデミー担当教員に対するインタビュー	
15:00～ 17:30	訪問チームミーティング	・集中訪問中に収集された情報の共有	・進行役を務める。 ・メンバーから提示された情報をまとめる。	
		・訪問チームからの提言の作成	・訪問チームからの提言を取りまとめる。	
10/25	7:15～ 8:20	終了報告	・前日の訪問チームミーティングの概要報告	・進行役を務め、報告に対する対象校の教職員からの意見を収集する。

の機会を増やしてほしい。そうすれば、ハイスクールのことについて教えたり、勉強を見たりして、サポートすることができる。」という意見が、生徒から出された。

授業観察では、商業の「情報処理」の授業で用いられている教材が、リーダーから高く評価された。その授業では、キーボード入力の実習教材として、文法的に誤りのある文章を正しい文法に訂正しながら、入力するソフトウェアが使用されていた。

授業観察・インタビューの空き時間に、第1日のミーティングに参加できなかったメンバーに対して、学校訪問の主旨や授業観察・インタビューについての説明等のフォローアップが行われた。また、授業観察・インタビューの間や昼食時に積極的にメンバーとコミュニケーションを取るリーダーの姿が観察できた。

第2日午後の訪問チームミーティングには、リーダーを含め8人が参加した。各メンバーの収集した情報は口頭発表で報告され、それらの情報をリーダーは持参したノート型コンピューターに入力して記録した。実践校における教育実践の現状については、学校改善に対する校長の意識が高いこと、生徒の主体的な参加を促す活動を取り入れた授業が行われていること、ハイスクールの生徒に対するガイダンス・プログラムが充実していることがあげられた。また、訪問対象校で計画されている学校改善に関する取組としては、正規のカリキュラム内でのチューター・プログラムの実施、ミドルスクール段階でのガイダンス・プログラムの提供があげられた。

その後、各メンバーが提示した情報をもとに、訪問対象校における学校改善を更に促進させる提言をまとめる協議が行われた。提言をまとめるための情報として、対象校の抱える問題点を列挙するよう、リーダーがメンバーに求め、以下の9点がメンバーからあげられた。第1に発展レベルの授業開設数が少ないことである。第2に基礎的な内容の授業が多く、授業に参加していない生徒も見られることが指摘された。第3にミドルスクールにおいて、質の高いリーディングの授業が行われているが、全生徒を対象にしていないことがあげられた。第4は問題行動を起こす生徒を教室の隅に座らせる傾向があることである。第5にカリキュ

ラムに関する知識の乏しい教員が複数おり、カリキュラムに全く沿わない授業を行う教員もいることが指摘された。第6にカウンセラーの人数（1名）に対して担当業務が多すぎることがあげられた。第7は教科書を使用しない授業が多いことである。第8に各教室に配置されているコンピューターが使用されていないことが指摘された。第9は授業中にフォーマルな英語を使用しない教員がいることである。

これらの問題点を踏まえて、訪問対象校に対する提言と、学校区に対する提言がまとめられた。対象校に対する提言は次の7点にまとめられた（括弧内は上に示した問題点のうち関連するもの）。すなわち、提言1「より高度な授業の提供（1・2）」、提言2「全ての生徒を主体的に参加させる授業の実施（3・4）」、提言3「カリキュラムについて高度な専門性を持つ教員の配置（5）」、提言4「カウンセラーの加配（6）」、提言5「教科書の使用（7）」、提言6「各教室に配置されたコンピューターの活用（8）」、提言7「異学年間交流の機会の提供」である。

提言5・6・7については若干の説明を加える必要がある。提言5は、「多くの授業で教科書が生徒の人数分用意されていない」という8学年生に対するインタビューの結果を反映させたものである。このことは、翌日の終了報告で大きく取り上げられることとなる。提言6も「生徒のコンピューター使用が禁止されている」という8学年生に対するインタビューの結果を反映させている。メンフィス学校区はIT環境の整備を積極的に進めており、管内の各学校相互と教委を結ぶイントラネットの整備や各教室へのコンピューターの設置を行っている。このような学校区の取組を踏まえれば、Aハイスクールにおけるコンピューターの活用状況は学校区の意向に反するものであるといえる。提言7は、上記の問題点から提示されたものではない。しかし、先に示した12学年生に対するインタビューの結果を生かし、ハイスクールの生徒がミドルスクールの生徒のチューターとなるプログラムをミドルスクールにおけるガイダンス・プログラムで実施を提案するための提言として取り入れられた。

また、学校区に対する提言として、教員加配のための予算の拠出（問題点1・2・6）、カリキュラムと教授法に関する教員研修の提供（問題点5・9）がまとめられた。

これらの提言の中から、もっとも早急に対処すべき事項に対する提言として提言1が、第3日の終了報告で示されることとなった。学校訪問に参加した感想をリーダーがメンバーに尋ねたところ、学校区内の他のハイスクールの様子を観察することは、自校における教育実践の参考になることが多く、有益であるとメンバーは答えた。

第3日の終了報告には、訪問対象校の教員が参加した。小規模校の良さを生かした教育実践が行われていることが評価された。具体的には、学校改善に対する校長のビジョンが明確であること、生徒のニーズに応じた特別支援の提供がなされていること、教員やカウンセラーによる雰囲気作りが行われていること、校内外の支援体制があること、ハイスクールにおけるガイダンス・プログラムが充実していること等があげられた。他方、問題点として、発展レベルの授業が少ないこと、講義中心の授業が多いこと、教科書を使用しない授業が多いこと等が指摘された。訪問チームからの提言として、提言1（より高度な授業の提供）に加えて、異学年間交流を含めたガイダンス・プログラムの充実が提示された。また、Aハイスクールのニーズを把握した支援提供、特に、教員の加配を訪問チームから学校区に提言することが報告された²⁴⁾。

Aハイスクールの現状をより正確に捉えるため、リーダーの報告に対して教職員からフィードバックが求められた。具体的なフィードバックとしては、特別支援教育のクラスで週に一度健常児との交流が行われていることや、授業の一環として地域支援事業が行われていることを、優れた教育実践に加えて欲しいという意見が教員から出された。また、教員数が少ないため、より多くの授業を開設することが困難であることも教員から指摘された。この発言を受け、教員加配という学校区への提言の理由に、教員の発言を加えることがリーダーから約束された。他方、教科書については、教員用の指導書もなく、生徒用教科書も必要な冊数揃っていないことが教員から報告された。このような状況は校長も把握しておらず、この報告を受けて早急に対処することが、校長から約束された。

(2) まとめと考察

各種 TAV ガイドには、訪問評価の実施方法・プロセスについて詳細な指示がな

されており、学校訪問の実施に必要な情報はガイドに全て掲載されている。そのため、ガイドは学校訪問のスムーズな実施を支える重要なツールであるといえる。しかしながら、実際の学校訪問の実施はガイドの指示通りに達成できるわけではなく、自己の経験や専門的な知識に基づいて、リーダーが状況に応じた対応を行うことが、学校訪問の円滑な実施に役立っていることがAハイスクールにおける学校訪問の事例の分析を通して明らかになった。

たとえば、第1日のミーティングから第2日午後に行われるチームミーティングまで全日程に参加することをガイドはメンバーに義務づけている。しかし、Aハイスクールにおける学校訪問では、第2日の授業観察・インタビューにしか参加できないメンバーがいた。学校訪問に参加するメンバーの多くはボランティアであり、本業とのスケジュール調整によって時間を捻出し学校訪問に参加しているため、全日程への参加が困難なメンバーがでるといった状況が起きていると考えられる。このような状況において、全日程に参加できないメンバーを排除するのではなく、メンバーが学校訪問に参加することができる限られた時間を有効に活用する様々な工夫を、リーダーは行っていた。たとえば、第1日の研修で必要な情報をメンバーにわかりやすく的確に伝えることや、第2日の報告会でノート型コンピューターを活用することによって、ミーティングの時間を短縮することがあげられる。また、第2日にしか参加できないメンバーへのフォローを空き時間に行うことも、リーダーの行っている工夫の一つである。

また、訪問対象校のHSTW担当教員は、学校訪問の1ヶ月前に、訪問チームのメンバーの名簿をSREBに提出することがガイドでは定められている。SREBはその名簿に基づき、メンバーにガイド等必要な資料を送付する。メンバーは送付された資料を熟読するようガイドで指示されている。しかしながら、Aハイスクールにおける学校訪問では、訪問チームのメンバーが当日にしかリーダーおよびSREBに伝えられていない。そのため、事前にガイドを入手し、熟読することができないメンバーもいた。このような状況で行なわれた研修において、リーダーはガイドの中で必ず読んでおく必要がある箇所と、授業観察・インタビューの際に参照すべき箇所を端的に示すことでフォローを行なった²⁵⁾。

また、訪問対象校の抱える問題点として教職員や生徒が把握している情報や、

学校改善に対する生徒の意見等が、学校訪問の実施によって明らかになったことも指摘できよう。たとえば、教師用の指導書も含め、教科書が必要な冊数用意されていないことが明らかになり、早急に対応策が取られる等、学校訪問の実施が問題解決のきっかけとなったことが指摘できる。また、異学年交流を含めたガイダンス・プログラムの充実という提言は、インタビューで明らかになった12学年生の意見を取り入れたものである。

4. おわりに

以上のことから、学校訪問の実施方法・プロセスの特徴は、次の3点にまとめることができる。第一に、各種ガイドをはじめSREBの開発した客観的なデータの収集を可能にするツールが活用されていることである。これらによって、ステイクホルダーや他の実践校の教職員等、訪問対象校に身近な人物による情報収集に客観性を持たせることが可能になっているといえる。

第二に、養成プログラムを終了したリーダーが、自らの知識と経験に基づいた判断によって学校訪問を円滑に運営していることである。特に、学校訪問における情報の収集において、生徒や教員の意見が多く採り入れる努力をリーダーが行っていることは、注目に値する。たとえば、Aハイスクールでの学校訪問では、12学年に対するインタビューの結果を反映した提言や、教科書不足の問題がインタビューや終了報告での議論であきらかになった。学校訪問によって明らかにした生徒・教員の指摘や意見を提言に取り入れ、改善計画に反映させることによって、訪問対象校にもっとも身近な人物による現状把握や改善に対する意見を明らかにすることが可能にする努力をリーダーは行っているといえる。

第三に、学校訪問の実践自体も、訪問対象校における改善計画の実施に影響を与える可能性があることである。本格的な改善計画の策定・実施は、TAV報告書が訪問対象校に提示された後に行われる。訪問対象校における職業教育改善計画の全体的な策定・実施は学校訪問の結果をまとめたTAV報告書の提示を待つこととなるが、終了報告での提言を反映し、学校訪問の直後から訪問対象校における職業教育改善の取り組みが実施される可能性があるといえる。

しかしながら、学校訪問は報告書を作成するための情報収集が主たる目的であ

るため、学校訪問の実施が、訪問対象校における職業教育改善に直接的な効果をもたらすわけではない。第3日に行われた終了報告における提言は早急に対処すべき事項に関するものではあるが、第2日の訪問チームミーティングでまとめられた提言の一部でしかない。また、提言された内容を実際の改善に生かす具体的な方策等も、終了報告では示されない。すべての提言とそれを実際の改善計画に生かすための具体的な方策は、TAV報告書において示される。したがって、本稿で取り上げた学校訪問が、Aハイスクールにおける職業教育の改善に与えた実際の効果を明らかにするためには、TAV報告書を基礎資料として策定された改善計画の内容とその実施状況、および改善の成果について検討を行うことが不可欠である。そのためには、AハイスクールのTAV報告書の内容を踏まえ、TAV報告書を基礎資料として策定された改善計画とその実施状況、改善による効果について検討することが必要であるといえる。

また、訪問対象校の現状を明らかにし、その後の職業教育改革を中心とした学校改善計画策定の際の基礎資料となるデータの収集が行われるという特徴から、本稿で検討を加えた学校訪問は、米国において1980年代以降取り組まれるようになった²⁶⁾、学校改善のための学校評価の一形態として考えることができよう。先行研究等を踏まえ、学校改善のための学校評価としての学校訪問の役割について検討することも今後必要であろう。

稿を改めてこれらの課題を達成し、本稿を補完して、ハイスクールにおける職業教育改善に対する学校訪問を中核とした外部機関による支援についてのさらなる理解の深化をはかることとする。

注

- 1) High Schools That WorkのWorkには、「機能する」「役に立つ」「働く」等複数の意味が含まれている。よって本稿ではその多義性を捉えるため原語のまま High Schools That Work (HSTW) と用いる。
- 2) SREBは加盟州の政府間連携によって教育の改善方策を立案・実施することを通して、南部地域の社会・経済の向上・安定に寄与することを目的とする組織で、2007年12月現在、アラバマ、アーカンソー、デラウェア、フロリダ、ジョージア、ケンタッキー、ルイジアナ、メリーランド、ミシシッピ、ノース・カロライナ、オクラホマ、サウス・カ

- ロライナ、テネシー、テキサス、ヴァージニア、ウエスト・ヴァージニアの16州が加盟している。(SREB 公式サイト <http://www.sreb.org/main/SREB/index.asp> 2007.12.19)
- 3) HSTW は今まで量的・質的な変化を遂げ、現在では32州が SREB- 州職業教育コンソーシアムに加盟し、1200校以上のハイスクールで実践が行われている。(HSTW 公式サイト <http://www.sreb.org/programs/hstw/HSTWindex.asp> 2007.9.1)
 - 4) HSTW モデルは、HSTW を基にした職業教育改善プログラムの実践に不可欠な要素であり、10の主要な実践 (10 Key Practices) 校長や教員が行うべき10の主要な実践 (10 Key Practices) と、実践を可能にする環境 (Key Conditions) で構成されている。(SREB *High Schools That Work An Enhanced Design to Get All Student to Standards* SREB 2005 p.2)
 - 5) 英語・数学・理科・社会科の科目履修に加えて、職業教育科目・理数科目・人文科目・職業教育とアカデミックな教育の融合科目の中から1つ専門科目を履修することを生徒に求めている。(SREB *High Schools That Work An Enhanced Design to Get All Student to Standards* SREB 2005 p.2)
 - 6) 具体的には、Parnell の研究 (Parnell, Dale *The Neglected Majority The Community College Press* 1985) や、The William T. Grant Foundation による研究 (The William T. Grant Foundation Commission on Work, Family and Citizenship *The Forgotten Half*, 1988) があげられる。
 - 7) 初等中等教育段階 (K-12) の学校191校 (エレメンタリースクール112校、ミドルスクール25校、ジュニア・ハイスクール4校、ハイスクール31校、職業教育センター6校、特別支援学校7校、チャータースクール6校) に、119,000人の児童・生徒が通い、約8,000人が教員として働いている。(メンフィス学校区教育委員会公式ウェブサイト <http://www.memphis-schools.k12.tn.us/admin/communications/facts.html> 2007.9.2.)
 - 8) うち、2校はミドルスクール併設校
 - 9) 生徒と母親、生徒の祖父母で構成される家庭が多い。
 - 10) これらのメンバーは、SREB のスタッフと州の HSTW 担当官、対象校の HSTW 担当教員の協議によって選出される。
 - 11) 『チームリーダーのための TAV ガイド (SREB *Technical Assistance Visit Guide for Team Leaders*, 2004)』、『チームメンバーのための TAV ガイド (SREB *Technical Assistance Visit Guide for Team Members*, 2004)』、『訪問対象校のための TAV ガイド (SREB *Technical Assistance Visit Guide for Local Sites*, 2004)』がそれぞれ発行されている。
 - 12) 2006年10月31日に SREB 本部 (ジョージア州アトランタ) で、実施した TAV ガイド作成担当スタッフに対するインタビューに基づく。
 - 13) 実習は、リーダーの補佐として参加する段階、指導員の監督下でリーダーを務める段

階、一人でリーダーを務める段階での3段階で構成される。

- 14) 2006年10月31日に SREB 本部（ジョージア州アトランタ）で、実施した TAV ガイド作成担当スタッフに対するインタビューに基づく。
- 15) 具体的には、以下のことが行われる。TAV における訪問チームの位置づけについての説明、メンバーの HSTW に対する理解・認識の確認、TAV の目的の確認、授業観察のグループ表配布、事前にリーダーが入手した訪問対象校に関するデータの紹介、授業観察・インタビューについての研修、注意事項の伝達である。
- 16) 『リーダー用ガイド』では、第二日に行われる授業観察・インタビューの実施に際して、リーダーは大きな役割を果たすとしているが、実際の TAV を観察したところ、授業観察・インタビューの実施よりも、これらに関する研修においてリーダーが大きな役割を果たしていることが明らかになったため、本文中のように表記した。
- 17) TAV における職務のうち、報告書の執筆がもっとも負担の大きい職務である。（2006年10月23日及び11月1日に実施したチームリーダーに対するインタビューによる。）
- 18) TAV 報告書の執筆についても養成期間中に指導員による指導が行われる。
- 19) 当該契約では、年度ごとに重点強化科目が設定されている。具体的には、ガイダンス・プログラムの開発や、重点強化科目担当教員の職能開発、実験的教授クラス（demonstration class）の設置、各校の管理職のリーダーシップ向上等が目標となっている。
- 20) 市教委の指導主事1名、校長2名（ミドルスクール、ハイスクール各1名）、ファシリテーター（facilitator）3名（ミドルスクール）、カウンセラー1名（ハイスクール）、教員2名（ミドルスクール、ハイスクール各1名）、が訪問チームに参加した。リーダー以外のメンバーはAハイスクールの授業改善ファシリテーター（instructional facilitator）の選出による。
- 21) 『リーダー用ガイド』に示されたものと同一のものである。
- 22) 「各授業のスナップショットを撮る」ように授業観察を行なうよう指示が出された。そのため、授業のどの場面（導入・展開・まとめ）を観察したのかを記録しておくことが重要であると、リーダーは述べた。
- 23) 校長等の管理職に対する生徒の要望を明らかにするために、リーダーはこのような質問を行っていた。
- 24) 教員の加配により、Aハイスクールでより多くの専門科目を開設することが可能となり、Aハイスクールに対する提言として提示されたより高度な内容の授業の提供が達成できるといえると、リーダーは述べた。
- 25) ガイドの有効性についてリーダーは「ガイドに記載されている情報を非常に有益なものであるが、量が多すぎるので実際TAVの実施においては、必要な情報を捨選択する必要がある」と述べている。（チームリーダーに対するインタビュー調査（2006年10月23

日、於テネシー州メンフィス市内)に基づく)

- 26) 米国では、アクレディテーションを目的とした学校評価が伝統的に根付いているが、1980年代以降展開されてきた学校改善研究の影響を受け、今日では学校改善のための戦略として学校評価が位置づけられるようになっている。(中留武昭『アメリカの学校評価に関する理論的・実証的研究』第一法規 1995 p.1)

The Characteristics of School Visit Support in High School's Career and Technical Education Improvement in the United States of America A Case Study on A High School, Memphis, Tennessee

Chizuru ISHIMINE

The purpose of this paper is to clarify the characteristics of support from an external organization in high school career and technical education (CTE) improvement in the U.S., especially focuses on the method and process of executing the school visit to A High School, Memphis, Tennessee.

In High Schools That Work (HSTW), the high school's CTE improvement program practiced by Southern Regional Education Board (SREB), three days school visit called Technical Assistance Visit (TAV) is the core of the direct support from SREB to HSTW sites. TAV is performed by TAV team organized by stakeholders (parents, residents, representatives from middle schools and postsecondary education organizations, representatives from business and so on) of the site and staffs from other sites.

There are three characteristics of the method and process in TAV through the analysis in this paper. 1) There are some ideas to eliminate members' subjective views in the data from classroom observation and interview, for example, the detailed guidebook made by SREB and the highly qualified Team Leader. 2) In the interviews of TAV, the Team Leader makes effort to show students and teachers ideas for school improvement. 3) Right after the TAV, the site can begin the effort to improve the CTE and whole school improvement partly, therefore the whole action to the school improvement start after the site receive the TAV report from SREB.